



福祉サービ

永田幸太郎隊員

みなさん、こんにちは。地域おこし協力隊は。地域おこし協力隊2年生の永田幸太郎です。寒いですが！今朝は霜が降りました。赤石岳には雪が降りまし

美しい季節の移り変わりの中、村のたくさんの人に親切にしてください、たのしく活動させて頂いています。いつもありがとうございます。現在も福祉の事を中心に活動しています。火曜日と木曜日に「まめ大福」、水曜日はデイサービスセンターの2階で「ひまわり会」のお手伝いをして

レーション進行、その他雑用係をやっています。それから、村の保健師さんとの「安心サポート」も続けています。いろいろな村の人に昔話や生活の知恵など教えていただいていたいへん勉強になっていきます。これからもよろしくお願ひします。



週に一度の「絵本の読み聞かせ」

高畑真二隊員

役場産業建設課 農林振興係

村では今年度、大鹿村特有の気候・風土を活かした新しい商品作物の可能性を研究する目的で、「イタリア野菜の試験栽培」を行いました。これは信州直売所学校の受講時に信州大学農学部を通じて種苗会社の研究員を紹介されたことがきっかけ

けとなったものです。先日行われた産業文化祭でも展示発表させていただきましたがこの場で改めて報告させていただきます。【試験栽培に至った背景と目的】 高齢化が進み、農地も限られている大鹿村において、少量でも高値で取引されているイタリア野菜は商品作物として魅力的な作物であり、「大鹿村ならでは」の特色のある農業」を目指すことは農業振興に限らず若者の定住促進、雇用創出など様々な効果も期待できることから今回の試験栽培に至りました。

【実施体制と種苗会社との連携】 大鹿村農業技術者連絡協議会(略称：農技連)とみどり会を中心とした生産農家、そして種苗会社であるトキタ種苗株式会社大利根研究農場のご協力のより実施しました。トキタ種苗株式会社は同業他社との差別化を図るため「特色のある商品作物」の開発、販路拡大に力を入れている中堅の種苗会社です。『身体に良い』『おいしい』『珍しい』『他にはない』などをテーマとした少量多品種の農業に注目し、イタリア貿易振興会、日本イタリア料理協会とも連携しながら日本の気候風土に合ったイタリア野菜の品種改良を進めるとともにイタリア野菜の美味しい食べ方の啓蒙活動などにも積極的に取り組んでいます。さらに、栽培指導に留まらず、FG袋やチラシ、のぼり旗の提供、さらには販路の紹介まで行っているのも特長のひとつです。

【実施内容と市場の反応】 村の気象条件だけでなく市場ニーズや今後の販路形成の可能性等も含めて検討した結果、「ナポリ」「ヴェネチア」「ローマ」の3種類に絞り「春蒔き(5月下旬定植)」と「夏蒔き(8月中旬定植)」、2つの時期に実施しました。例年になく夏の高温と小雨なども影響し作柄、数量については決して満足できるものではありませんでした。彩り的な要素も強く、紫と白の色合いがもう少し濃いほど好まれるらしい。7月の盛夏に出荷できる産地はあまりなく作型としては可能性はある。サイズが揃ったものがどれだけ収穫できるかも重要。

設定したこともあり販売面ではおおむね好評だった。『野菜卸売業者』『ヴェネチア』は、芯に近い部分の色が薄いとの評価。彩り的な要素も強く、紫と白の色合いがもう少し濃いほど好まれるらしい。7月の盛夏に出荷できる産地はあまりなく作型としては可能性はある。サイズが揃ったものがどれだけ収穫できるかも重要。『ナポリ』のサンプルは一個あたり約250グラム。市場ではその倍程度の大きさが出回っている。しかし、価格は下がるが小さくても商品にならないといことではなく、ヴェネチア同様に産地としての可能性はある。

【商品作物としての可能性と今後の取組み】 ご協力いただいた生産者のほとんどが初めての栽培ということもあり、播種の時期や施肥のタイミングなど手探りの状態でした。また、例年になく気温が高く、雨の少ない日が続き枯れたり、トウがたつなど管理面では非常に苦労しました。施肥のタイミングも今後の課題です。しかし、サンプル品については大きさや色づきなど作柄にはばらつきがあつたもののある程度の評価が得られたと言えます。商品単価が高く、大鹿村独自の作型(出荷時期)を特定することで商品作物としての可能性は高くなると思われ、今年度の反省を踏まえつつ今後も継続的かつ試験的な取り組みを続けていきたいと考えています。

次回は3月発行予定です。